

# 私の「三田歴史観光構想」

日本人で初めてビールを造った人って三田の人？  
北氏の「蘭学者、川本幸民」がPHPから出版されるって、三田の歴史を愛する者にとって、又、観光客にとっても、立派な歴史館が必要だ。

化学で楽しんで、地産の食材をつまみに幸民ビールを飲む。私はそんな川本幸民歴史館が欲しいな。

## 偉人川本幸民との出会い

十三年前、神戸市北区から三田のフラワータウンに引越して来た。大震災の罹災者証明を活用しての住宅購入が可能になったからだ。引越しも落ち

着いたころ

主人と二人で三田の町を散策してみようと三田小学校の辺りまで来て、はたと足を止めた。何かの石碑がある。近づいて文字を読んでみると、「川



本幸民顕彰碑」。まったく聞いた事もない名前だ。「日本で最初にビール醸造に成功した蘭学者で、三田の藩士」確かそんな説明が書かれてあった。「えー三田の山奥に蘭学者がいた？！（神戸の間から見れば三田は、田んぼばかりの米どころ）しかもビールを日本で初めて造ったって！」うそでしょ。それって神戸の人のまちがいじゃないの？半信半疑だった。私の三田に関しての歴史知識はそんなレベルであった。そんな歴史的な偉業を成し遂げた人の説明がそれで終わりなのにも驚いた。ビールって確かドイツや欧米で発明されたはず？もっと深い説明をしてくれる何かがないのかしら？と、あたりを見回しました。

## 急げ、観光拠点の整備

竹内市長は、「三田市にゆかりのある人物に焦点をあてながら、地域における魅力や資源の発掘、特に歴史的な地域資源をいかに町の活性化に結びつけるか。産・官・学・

民・で元気な町づくり」

を提言されています。が、今三田市の財源や予算面が緊迫している上にこれ以上本当に予算を投入できるのか、少々疑問に思われます。本場に町の活性を望むなら大きな枠を組んで頂きたいのです。九鬼奔流のホームページを見られ、三田の観光に又、町おこしの勉強にうかがいたいと言われる方々が除除に増えてきています。が、ご案内するこちら側としては、まことに心寂しい物があるのは否めません。三田にはすばらしい歴史と多くの偉人を輩出した背景があるにもかかわらず、それを代表する観光拠点がこれと言っていないのです。現状と言えば、各偉人の生誕地に説明文が掲げられているか、写真つきか、説明文があるのみです。今、胸を張ってご案内できるのは、宝塚歌劇で上演されている白洲次郎と正子の眠る菩提寺―心月院だけなのです。ところがここに観光客と呼び込んでも、ここは寺院であり営業をする場ではないのが現状です。

## 北康利著「蘭学者川本幸民」今夏出版

北康利氏は「占領を背負った男 白洲次郎」で山本七平賞を受賞されました。先般NHKの「その時歴史が動いた」で取り上げられ、大好評を博しましたが「蘭学者川本幸民」が出版されると全国から三田に観光客が押し寄せるとは明白です。さあどうする三田！

## 私的構想―三田市立「川本幸民歴史館」

建物の前には川本幸民の像がある。大型観光バスが何台も駐車できるスペース。一階のフロアーの約半分は川本幸民が用いた化学の実験室を再現、化学好きな方の為にお試し可能なキットを用意。マッチやカメラなどである。またもう半分は、日本で初めて醸造したビールの再現、これは多くのスペースが必要かもしれない。観光客には、これを試飲していただく。（ただしバスで来られた方のみ）又、川本幸民の一生を下

# 九鬼奔流通信

2008. 春  
Vol.005  
発行：NPO法人  
九鬼奔流で町おこしをする会

## 官・学・民協働で準備委員会立ち上げ「川本幸民祭り」に参加しよう！

平成二十年度川本幸民祭りは九月十四日（日）に開催の予定であるが、このほど三田市商工観光課主導の下、関西学院大学、ヌーベルきり絵の会、ドラマ九鬼奔流で町おこしをする会が準備委員会を立ち上げ、ヌーベルきり絵の会の山内照雄氏を会長に、活動を開始した。昨年は兵庫県主催の阪神北地域魅力発信バス「☆きらっと」によるバスツアーや、NHK主催の「兵庫史を歩く」などが行われ、「白洲次郎」の追い風もあって三田の歴史観光は人気を高めている。昨年の「☆きらっと」バスツアーでは募集人員130名に対し、応募者327名と大好評で、今年も募集人員を240名に増やし、九月七日から6回実施する予定。兵庫

### 年々活況を呈する三田の歴史観光 環境整備保全と資源の発掘を！

#### 歴史的資源で活性化

竹内市長は年頭に「三田市にゆかりのある人物に焦点をあてながら、地域における魅力や資源の発掘、特に、歴史的な地域資源をいかに町の活性化に結びつけるか。自分たちの町を知ることから始める観光で無ければ心のこもったおもてなしはできない」と、産・官・

#### 学・民で元気な町づくりを提言されています。

#### 官民協働の取り組み

三田には素晴らしい歴史がありながらも、それを裏付ける史跡や文化遺産が乏しく、このような歴史的資産をいかに多くの人に知ってもらうのか、観光行動も従来型の「見る」観光から「学ぶ」

#### 観光へと変化してきています。この様な課題に、NPO九鬼奔流で町おこしをする会は行政と連携した取組を提案してきました。

#### 教育委員会では初めて民間と協同して、子供たち向けに三田が輩出した偉人「川本幸民」などを紹介する「ふるさと読本」を作成しています。

#### 公民館とも連携して「三田学入門講座」を開き一人でも多くの市民の方に身近な郷土の歴史に



#### 学名誉教授・芝哲夫氏による講演、国際交流協会主催の英語講談、先哲を訪ねる歴史ウォーク、心月院他での各種展示等。六月には北康利氏の『蘭学者 川本幸民』、九月には『男爵 九鬼隆一』がPHP社から出版の予定であり、これによって三田が全国的に知名度が高まることは間違いのない。これを機会に観光客を倍増し、経済活性化に結び付けたい。

皆さん、三田の発展を目指して参画しませんか。（連絡先：三輪会館・高田 079-604-4338）

#### 歴史観光拠点として 旧公民館分室の活用を

市長の提言に添った官民一体の取組みとしての要望は、三田のいにしへの歴史ロマンを感じ、三田のいろんな観光情報を知り、観光客と市民のふれあう中身の濃い観光拠点として、旧九鬼家住宅資料館に隣接する休館中の公民館分室をリニューアルし「歴史資料館」として有効活用をすること

#### 欧化政策を進めた逸材

江戸時代九鬼氏三万六千石の城下町として隆盛をきわめた三田は、蘭学者川本幸民の影響を受けて多くの逸材を輩出しました。明治維新にいち早く西洋文化やキリスト教を受容してきた最後の藩主九鬼隆義とその時代に活躍した人々、男爵九鬼隆一や日本初の心理学者元良勇次郎などの生誕地、武家屋敷の面影が残る屋敷町に点在する先人の足跡に触れる、三田を再発

ラマ化したDVDが常時映しだされている。二階には地産地消のモデルケース、三田産の牛肉、鶏肉、安全な野菜を材料とした食事を提供できるレストラン。ここに有名なシェフを呼んでくる。これが薄利多売で大盛況。そして一番の売りは川本幸民ビール、また黒豆ビールも販売。さらに地元でとれたそばで、そばうち指導、試食のコーナー。またヤング向けに有名ピザ屋さんなどひっぱりつけてもよい。そして忘れてはならないのは、野菜や肉の直売コーナーである。土日になると観光客が路上に列をなし交通整理が必要なほど。

などなど夢はふくらむ一方だが、この営業が三田の町を活性化に導き、三田の財源を潤すようになれば、全国の地方政治に朗報をもたらすのではないのでしょうか？竹内市長さん、あなたの御提言どおり歴史資源で町の活性化を図り、元気な町三田をよろしく願っています。

（文・会員：種村 好）